

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

| 学校経営方針(学力向上に関わる要点) |
|---|
| 充実した授業を通して、確かな学力と体力の向上を目指す。 ① 分かる授業・楽しい授業を実現するために、ICTを活用する教材研究に励む。 ② 思考力・判断力・表現力(わかる学力)を育むために、各教科の言語活動を充実させる。 ③ 各教科や総合的な学習の時間の充実を図るために地域の教育力を活用する。 ④ 学力の基礎・基本(できる学力)を向上させるために、読書活動を推進する。 ⑤ 体力向上のために、授業と部活動でのウォーミングアップの充実を図る。 |

| 授業改善の重点 |
|--|
| ① 一斉授業の中に個別最適な学びと協同的な学習を取り入れ、授業改善を進めていく。 ② 生徒の学習意欲を高めるために、ICT機器を積極的に活用する。 ③ より精度の高い評価・評定を行うために、常に評価規準・評価材料を見直す。 ④ 基礎・基本の定着を図るために、ChromebookやQubenaの有効活用を図る。 ⑤ 地域の教育力を活かすために、ボランティアコーディネーターを積極的に活用する。 ⑥ 朝読書を一層充実させるために、図書室の蔵書を増やす等図書環境を整える。 ⑦ 体力向上、運動に親しむために、工夫した授業展開や部活動を活用する。 |

| | 国語科 | 美術科 | 総合的な学習の時間の指導の重点 | 特別の教科 道徳の指導の重点 |
|--|---|--|---|---|
| 各教科の指導の重点 | ○生徒に習得させたい内容に応じて視覚的、聴覚的に学習できる教材を使い分けるために、ICT機器を効果的に用いる。 ○読解内容の話し合いや、自身の意見についてのスピーチ、プレゼンテーションといった言語活動を充実させ、話す力・聞く力の向上を図る。 | ○造形活動を意欲的に楽しみながら行えるよう、個人の能力や個性に応じた分かりやすい指導を徹底する。 ○美術史の学習を含めた鑑賞を積極的に行うことで、芸術の深みや社会との関連に気づかせ、生徒の世界を広げる。 | ○学校行事を通じて、学級・学年集団への所属感を深め、集団行動における望ましい態度を育てる。 ○集団の中で自分の役割を果たしていくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていく。 | ○「特別の教科 道徳」に実施に向け、教科書を使用し、授業を工夫しながら実践を重ねていく。 ○個々の思考を大切に、他者の意見との一致点や相違点について考えを深める活動を行う。 |
| | 社会科 | 保健体育科 | | |
| | ○生徒が学びに見通しをもてるよう、授業の冒頭で展開を提示する。また、単元を見通すワークシートを活用する。 ○基礎知識を活用し考察する場面や、考察したことを表現する場面を設定し、言語活動の充実を図る。 ○生徒が主体となり学習内容を深めるグループ学習を行い、自ら学ぼうとする力を高めさせる。 | ○準備運動、ラジオ体操、集団行動、補強トレーニングを行い、基礎体力の定着、授業への取り組み方を向上する。 ○各単元の、技能目標を明確に持ち、達成に向けたグループ活動、学習カードの工夫、評価と指導の一体化を図る。 ○ICTを活用し、協働活動の充実を図る。 | 特別活動の指導の重点 | |
| | 数学科 | 技術・家庭科 | | |
| | ○スモールステップを設定しながら苦手意識をもつ生徒の割合が減るようにし、少人数授業の基礎グループの理解度を上げる。 ○応用問題を学習する場面を多くし、考える力のより一層の習得を目指す。 | ○既習事項や他教科との関連を意識させたり、社会や生活の場面を想像させながら、生徒が主体的に取り組める授業の展開を図る。 ○授業のねらいを明確にして、講義、話し合い活動、実習、発表など、単元に応じた方法で知識・技能の定着を図る。 | | |
| | 理科 | 外国語科 | | |
| ○学習のねらいを明確にし、授業に取り組む意欲を持たせる。 ○具体的に見たり体験できる実験・観察を重視し学力向上につなげていく。 | ○会話の実際の場面を想定しながら、生徒が主体的に取り組めるような授業展開を心がける。 ○ICTを用いて正しい音声身につけ、慣れていくようにする。そして、やりとりや発表の「話すこと」の活動量を増やしていくようにする。 | | | |
| 音楽科 | | | | |
| ○歌唱、鑑賞、器楽、創作の各分野において少数グループ活動を積極的に取り入れ、生徒同士の学び合いをより深める。 ○ICTを用いて、合唱のパート練習や合唱を客観的に鑑賞し、改善点や変化などを伝え合わせ、音楽表現について考えさせていく。 | | | | |

| | ICT機器の活用 | 価値ある対話の共有 | 振り返りの設定 |
|-------------|--|--|---|
| 本校の授業改善に向けて | 以下の場面でICT機器の活用を目指す。 ○生徒が、自分のやることをきちんと分かっている。(課題提示ツール) ○生徒の活動が、活発に行われている状態を作り出す。(情報収集、整理・分析ツール) ○生徒が、対話を通して自分の考え方を洗練させていく。(文章校正ツール) ○生徒が、自分の考えを発信する。(発表ツール) | 他者との関わりの中で、より広く深く考え、表現していく力を身につけるために対話の場面をつくる。 ○人に教える・説明する活動を通して、自分の考えをしっかりと伝える力を身につける。 ○話し合いを通して、多面的・多角的に物事を見る力を身につけていく。 ○既習事項を活用しながら、他者との関わりの中で課題を解決していく力を育む。 | その日の授業で学んだことを振り返るために、授業の最後に以下の視点を生徒に意識させ振り返りを行う。 ○「本時の目標」について、理解したことを自分の言葉で表現する。 ○本時の学習活動で気づいたこと疑問に思ったことを記録していく。 ○振り返りの文章について客観的に読み直し、より分かりやすい表現を模索していく。 |